

ライフコース・ヘルスケア

—慢性疾患は、軽度異常の時期こそが大事—

笠間市立病院 石塚恒夫

糖尿病などの慢性疾患は治療することはなく、生涯にわたる治療や生活習慣改善が必要で、診断時にはすでに不可逆的という疾患は、他にも多く存在します（慢性心不全、慢性腎臓病、認知症、骨粗鬆症、変形性関節症など）。超高齢社会を迎え、慢性疾患の医療・介護負担は増えています。慢性疾患がいつどのように発症するかを知ることが、対策を講じる上で重要です。

英国公務員6538人を10年以上追いつ、505人の糖尿病発症を観察した研究があります。糖尿病群では、空腹時血糖が発症2年前から、食後血糖が4年前から上昇しました。しかし観察が開始された10年前から、血糖はすでに有意差を持って高かったのです（空腹時血糖は100mg/dl以上）。

健康や疾患が発達の影響を受ける、「発達プログラミング説」が提唱されています。第二次世界大戦末期にドイツ軍に経済封鎖されたオランダは、5か月間飢餓状態に置かれました。その期間に胎生初期にあり低出生体重だった群は、戦後の栄養状態

改善に伴い成人後の糖尿病、虚血性心疾患が増加しました。同様の現象は、第二次世界大戦中の英国農村部などでも報告されています。発達段階の貧しい環境は生後も貧しい環境であることを予測させ、遺伝子を節約型に修飾します。遺伝子自体の変異はないものの、生涯にわたる影響がみられます。日本では2500g未満の低出生体重が大きく育てる「方針は考え直すべきです」。

以上のような理由で、慢性疾患には胎生期からのライフコース・アプローチが必要で、健康寿命を延ばし、医療・介護負担を減らすためには、世代別に発生しうる病気の芽を摘むしかないのです（低出生体重、小児肥満、喫煙、運動不足、社会からの孤立など）。「発症してからは手遅れ、発達期や軽度検査異常こそが重要」と、意識を変える必要があります。メタボリックシンドロームのように未病段階で介入することも、早期診断・早期介入の重要な手段とされます。

笠間の歴史探訪 30

高龍神社

岩間街道の淡島神社（土師）から北へ入ること約三〇〇mの杉林の中に高龍神社が鎮座します。

同社の創建年是不詳。明治初年高龍神社と改称しましたが、以前は八龍神社と呼ばれていました。祭神は、高龍神・閻津神です。この両神は『古事記』にある神話の雨の神で、祈雨・止雨の神とされています。

伊邪那岐と伊邪那美の夫婦の神は多くの神々を生みましたが、最後に生んだのが火之迦具土神という火の神です。そのために伊邪那美神は火傷し、それがもとで亡くなりました。伊邪那岐は、伊邪那美の死因となった火の神・迦具土神の首を刎ねてしまいました。そのときに剣の柄に集った血が、手の指の股から漏れ出て生れたのが、閻津加美神と閻津羽神の二神です。閻津加美神は、古来より雨を司る竜神としての信仰があります。

この両神は、水の調節を自在に操り、豊葦原の瑞穂國の穀物を豊かに実らせる営みをなす神で、国土繁栄のもとをなしていると言われています。

また『万葉集卷二』の天武天皇夫人藤原五百重娘の歌にも「於可美」がみえます。

天武天皇から藤原夫人へ賜った歌

我が里に大雪降り大原の古りにし里に降らまくは後

（私の居る里には、大雪が降っている。お前の居る大原の古い里に降るのは、その後のこと。悔しいだろうね。）

藤原五百重娘が答えた歌

我が岡の霽に言いて降らしめし雪の摧し其処に散りけむ

（いいえ。私の居る大原の岡の霽に言って、降らせた雪のくだだけかけらるが、そちらに降ったのでしよう。）

と、お互いにかけてあいだで詠んだ和歌です。

「おかみ」は種々の書物に記されており、昔から水神・竜神として広まっていた信仰なのだと分かかります。

地元の古老などは、八龍神社と呼んでいたことから、農作業に欠かせない水の恵みを祈ったのでしようか。

（市史研究員 松本兼房）



高龍神社